

放課後等デイサービス評価表【事業者】 数値は%です。(回収率100%)

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	空白	ご意見
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	0	0	学年によって部屋を決めている。
	2 職員の配置数は適切である	83	17	0	0	個別対応も即座にできるよう人員を確保している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	67	33	0	0	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	50	0	0	50	それぞれの療育について話し合うケース学習会を行い、情報共有に努めている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83	0	0	17	保護者をより深く理解するため、日々のコミュニケーションを大切にしている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	0	0	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50	17	0	33	外部講師を定期的にお願ひして研修している。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	0	0	週1回、職員研修の時間を確保している。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	0	極力保護者とじっくり話し合う時間をもつようにしている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	33	33	0	33	「アセスメント」を重視しており、さらに研修を重ねている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	0	0	何をどんな目的とするのか等細かく話し合っている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83	17	0	0	迎えに行った折りに担任から得た情報や保護者からの連絡などを元に、課題や対応の仕方を柔軟に組み立てている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83	17	0	0	長期休暇中は屋外活動を設定するなど日々に応じた課題を用意しているが、天候や児童生徒のその日の状態を勘案して支援している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	0	相性の良し悪しも含め、活動の内容を実態に合わせて考えている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	0	0	大切にしている。子供のスムーズな受け入れのために情報交換や確認を今後も大切にしたい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100	0	0	0	短時間ではあるが話し合っている。担当した児童生徒の見取りの報告を行い、効果的だったこと・改善点等協議している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	0	0	ケース分析の参考にしてている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	50	0	0	50	半年ごとにモニタリングを行った。
関	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	50	17	0	33	ガイドラインを念頭に置き、多角的な視点から支援を行っている。
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83	17	0	0	職員研修の機会としている。
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100	0	0	0	学年便り等の文書はコピーを預かり、行事や下校時刻の確実な把握ができるようにしている。また、トラブルの可能性があるとされる場合にもこまめに確認を入れている。学校に迎えにいたるときも情報収集に努めている。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0	0	100	医療的ケアが必要な児童生徒は現在来所していない。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83	0	0	17	電話や面談で話し合い、情報共有をしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33	50	0	17	現在、該当する児童生徒は居ない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83	0	0	17	開所時間内である場合でも可能な限り人をやりくりして参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	17	50	33	今後の年間計画に組み入れていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17	33	0	50	開所時間内である場合でも可能な限り人をやりくりして参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	0	0	保護者が迎えのために来所したときを利用して話し合っている。また、まとまった時間が必要な場合や日頃は来所しない家族(お父さんなど)とも認識の擦り合わせが必要と思われる時は別に時間をとって共通理解をはかっている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100	0	0	0	保護者学習会を年間4回程度開催した。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67	0	0	33	契約時に丁寧に説明している。その後も必要に応じて説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	0	0	主に午前の時間を使いピアカウンセリングを中心にやってきた。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17	50	0	33	保護者学習会の折には、フリートークの時間を設けてそれぞれの心配事を参加者で共有したり一緒に考えたりする機会を持っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83	0	0	17	連絡帳、メール、迎えに来たときの直接の対話などを利用して対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83	17	0	0	会報「わくわくランド」を月1回発行し、事業所での子供の様子や職員の思いなどを伝えてきた。
	35	個人情報に十分注意している	83	0	0	17	書類の管理を徹底し、守秘義務を常に意識して行動している。「画像使用許諾書」を通して本事業所の方針・行動についての理解・許諾をはかっている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	67	33	0	0	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33	33	0	33	近隣住民に避難訓練を事前に予告したり、季節の行事には子どもの制作物を配ったりしている。(お月見、バレンタインデーなど)。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	33	33	0	33	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83	0	0	17	訓練を行い、避難場所・経路の確認をした。定期的に行い、徹底していく必要がある。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	0	0	外部講師を招いて実践してきた。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	33	33	0	33	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67	17	0	17	情報を打ち合わせで食物アレルギーの情報を共有し、職員が目につく場所に掲示している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	33	33	0	33	